

令和3年度

病害虫発生予察情報

第3号

注意報第2号

北海道病害虫防除所 令和3(2021年)5月17日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

全道で秋まき小麦の赤さび病が早期発生 今後の発生に注意し、早めの防除を行いましょ

本年は3月が記録的高温で推移し、各地で融雪が早まりました。加えて4月も平年より気温が高く推移し、無防除の定点ほ場における秋まき小麦「きたほなみ」の赤さび病の初発は、長沼町で4月7日（平年：4月25日）、訓子府町4月29日（平年：5月15日）とかなり早く確認されています。なお、芽室町（平年：5月11日）では5月14日現在で初発を認めていません。

主力品種「きたほなみ」は赤さび病抵抗性が“やや強”とされていますが、近年赤さび病の発生が多くなっており、下葉に病斑が多く見られる場合は、開花始に行われる赤かび病との同時防除だけでは被害を抑えられない状況が続いています。そのため、止葉抽出から穂ばらみ期にかけての薬剤散布が必要となっています。

今後の赤さび病の発生状況を確認し、下葉に病斑が多く見られる場合は、早めの薬剤防除を実施しましょう。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生期 既発（早）

3. 予想される発生量 多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 予察ほにおける初発が平年よりかなり早く確認されている。
- 2) 長沼町の予察ほの病斑面積率（全葉）は、5月2半旬では0.21（平年0.02）と平年より高く、最上位葉から一枚下の葉でも発生が認められている。
- 3) 本病は高温乾燥条件でまん延する。札幌管区气象台による5月13日付け1か月予報によると、向こう1か月（5月15日～6月14日）の平均気温は、高い確率が60%と予報されている。

5. 防除対策

- 1) 「きたほなみ」では止葉抽出から穂ばらみ期にかけても赤さび病に対する薬剤散布を行う。
- 2) 1か月予報では気温が高く経過すると予報されており、小麦の生育も早まると考えられることから、ほ場を観察し散布時期を逸さないように注意する。
- 3) 赤さび病抵抗性“中”以上の品種では、赤さび病と赤かび病の両病害に効果のある薬剤を選択することで、開花始に行う赤かび病との同時防除により対応可能である。